今月の表紙

全日本中学生ホッケー選手権大会

8 月19日（日）・20日（月）に、根室の市ホッケー場などで、全日本中学生ホッケー選手権大会が開催されました。男女各24チームが出場した大会には、市内から今市中・大沢中の男子、今市中・東原中・豊岡中の女子が出場。3チームずつに分かれて予選リーグを行い、各組上位２チームが決勝トーナメントで優勝を目指しました。

市内の５チームは、全て決勝トーナメントに進出。男子は今市中と大沢中がともに２回戦で、女子は東原中と豊岡中がともに１回戦で敗退しましたが、今市中女子が準決勝へ進出し、３位となりました。主将の吉原紗羅さんは「優勝したかったけど、自分たちの実力では準決勝までということも分かった大会でした。うれしくて悔しいです」と答えながらも、とびきりの笑顔を見せてくれました。

銅山観光ナイトツアー

8月25日（土）、足尾銅山観光でナイトツアーが催されました。

このツアーは、「足尾まるごと井戸端会議」が企画したもので、４回目を迎えた今年は、11名の家族連れが参加しました。

まず、明かりのともっている銅山の坑道の中に入り、ガイドから銅山についての説明を受けました。その後、ツアーの前に自分たちで作ったカンテラを持って明かりの消えた坑道の中へ入り、出されたクイズの答えを探しながら散策しました。最後に、鉱石をハンマーとタガネを使って割り、中から銅や水晶が出ると、参加者たちは大声を上げて喜んでいました。

東京都から参加した吉野駿太郎さんは「夢中になってハンマーを打ち過ぎたので、腕が痛いです」と汗を流しながら話してくれました。

ツール・ド・NIKKO2012

9月9日（日）に、日光市役所をスタート・ゴールとするツール・ド・NIKKO2012が開催されました。

今年で2回目となるこのイベントは、順位を競うレースではなく、交通ルールを順守してサイクリングを楽しむものです。

今年はプロレーシングチーム「宇都宮ブリッツェン」がコース監修し、さらに快適に楽しく走行できるようになりました。

日本中から集まった1、404名の参加者たちは、日光の爽やかな風の中、「山岳チャレンジ100㎞」「ファンライド70㎞」「日光サイクリング45㎞」の3コースを気持ちよさそうに走り抜けて行きました。

足尾グリーンフォーラム

8月19日（日）、銅親水公園と足尾環境学習センターで足尾グリーンフォーラムが開催されました。

13回を迎える今回は、足尾の植物を使った草木染めや木工クラフトなどの体験、シカのふんの数を数え、生息数を割り出す調査、足尾出身のサックスプレーヤーのジミー中山（なかやま）氏によるコンサートなどが開催されました。また川魚や手打ちそばなどの模擬店も出店され、会場を訪れた方々は足尾の自然に触れたり、おいしい食べ物に舌鼓を打ったりしていました。

午後には、わたらせ未来基金代表の青木昭彦（あきひこ）氏による基調講演が行われ、「ボランティアが思いを込めて植樹した木々も成長し、間伐を行う時期にきている。今後どんな森にしていくかを考える必要がある」との提言がありました。

続いて行われたシンポジウムでは、４名のパネラーが100年後の足尾を見据え、植樹のあり方や環境学習の拠点としての足尾の役割などについて意見を交わしました。

アジアリーグアイスホッケー日光シリーズ開幕戦

9月8日（土）、アジアリーグアイスホッケーが開幕しました。昨シーズン準優勝という好成績を収めたH.C.栃木日光アイスバックス（以下、アイスバックス）は、霧降アイスアリーナでチャイナドラゴンとの初戦に臨みました。

アイスバックスは第1ピリオド13分、今期からの新戦力、DFマゴーリーのシュートで先制すると、続けざまに得点を追加し、駆け付けた多くのファンからは歓声が沸き起こりました。その後、アイスバックスは何度も窮地に立たされましたが、チーム一丸で守り抜き、終わってみれば5対0の完封勝利でした。試合後、GK福藤（ふくふじ）選手は、「優勝目指して頑張るので、信じて応援をしてください」とファンの声援に応えました。

アイスバックスは翌日も7対4で快勝し、クラブ史上初の日光での開幕を、2連勝という幸先の良い結果で飾りました。

ふれあい橋夜まつり

8月10日（金）～19日（日）に鬼怒川温泉大原で、ふれあい橋夜まつりが開催されました。

付近の飲食店協力の下、会場から各店へ出前の注文ができるビアガーデンが設置され、歌などのパフォーマンスやバルーンアートも行われました。

訪れた人たちは、橋の上という珍しい場所でのビールと、川沿いの夜景を楽しんでいました。

湯殿山神社祭礼

8月17日（金）、湯西川で県の選択無形民俗文化財に指定されている湯殿山神社祭礼が行われました。

慈光寺から猿田彦（さるたひこ）と神輿（みこし）の行列が湯殿山神社に向かって出発し、災厄除けの祈願をしました。

境内には地元の人たちや観光客が大勢集まり、静かに神事を見守っていました。